



## 「朝潮橋」はどこに？

安治川と尻無川に挟まれ、区内を天保山運河や三十間堀川が流れる港区には、多くの橋があります。千舟橋、難波津橋、日和橋、…そして、駅にも「朝潮橋」駅があります。

ところが現在、港区内に「朝潮橋」という名の橋は存在しません。

市営地下鉄中央線・朝潮橋駅の開業は昭和36(1961)年ですが、当時駅周辺に朝潮橋という橋はなく、駅名は近くにあった大阪市電の朝潮橋停留場(昭和35(1960)年休止→廃止)から採られました。朝潮橋はどこにあったのでしょうか？

新田として開発された港区には、現存する河川や運河のほかに、かつては井路川いじかわと呼ばれる小さな水路が数多く存在し、水利や運搬に利用されていました。



朝潮橋があった付近の風景(昭和35年頃・交通局提供)

明治36(1903)年、花園橋(西区)から築港に至る築港大道路(現在のみなと通)が完成し、井路川を渡る橋が多数架けられました。朝潮橋は、これらの橋のひとつとして造られたものです。

同年、築港大道路に大阪初の市電が開通、その数年後、明治42(1909)年頃に朝潮橋のたもとに停留場が新設され、「朝潮橋」と名付けられました。朝潮橋が架かっていた井路川はその後開削され、安治川と三十間堀川を結ぶ「安治川運河(八幡屋運河)」として整備されましたが、戦後、防災事業のため昭和26(1951)年に埋め立てられ、このときに朝潮橋もなくなりました。



築港大道路にあった橋のうち、現存するのは千舟橋のみで、朝潮橋をはじめ他の橋があったことを偲ばせるものは何もありませんが、朝潮橋は今も駅名としてその名残を留めています。

市立運動場(現在の八幡屋公園)の南東(地図右下)に「朝潮橋」があります。  
(昭和12年刊「最新港区地図」大阪市立図書館所蔵)